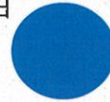


令和 6 年 8 月 2 日

磐田市議会議長 鈴木喜文様

会派名 公明党磐田

代表者 江塚学



会派視察研修等報告書

会派視察研修等の結果について、磐田市議会政務活動費の交付に関する規則第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

期 間	令和6年7月23日(火)から令和6年7月24日(水) 2日間
視察先 研修会	日 程 (1)静岡県三島市 7月23日(火) 時間:10:00~11:30 (2)福島県喜多方市 7月24日(水) 時間:10:00~11:30
参 加 議 員	鈴木喜文・江塚学
調 査 事 項	(1) <u>三島市『スマートウェルネスみしま推進事業について』</u> ●取組みの契機・経緯 ●取組みのための社会資本整備の状況(道路、公共交通等) ●健康づくりと地域づくりの好循環の事例 ●市民や企業などの反応 ●事業推進上の庁内各部署の連携状況 (2) <u>喜多方市『小学校農業科について』</u> ●構造改革特区指定以前の状況と導入時の検討内容 ●子供たちの反応や主たる変化 ●事業開始当初からの保護者や市民の反応 ●支援員や圃場の確保方法と支援員の声 ●教員サイドから見た子供たちに表れている効果 ●副読本の活用方法と小学1~2年生への対応
調 査 内 容 考 察	別紙のとおり

(注) 視察研修の調査内容及び考察は、視察先ごとに詳細に記入する。
調査事項等に係る資料等を添付する。

公明党磐田会派視察研修報告書

1 視察期間

令和6年7月23日(火) 10:00~11:30

2 視察都市

(1) 静岡県三島市

3 参加者

鈴木喜文、江塚 学

4 視察事項

・静岡県三島市

【スマートウエルネスみしま推進事業について】

【調査内容】

三島市の「スマートウエルネスみしま」や健康づくりに関する取組みの調査内容をまとめる。

1. スマートウエルネスの取組みについて

- ・ 目的: 高齢化や人口減少の中で、市民が住み慣れた地域で健康で幸せに生活できるようにすることである。
- ・ 背景: 三島市は10年以上前からスマートウエルネスに取り組んでおり、現在の市長は12年間このプロジェクトを推進している。
- ・ 成果: 2021年には「住みやすい街対象」で県内1位を獲得している。
- ・ 計画: 総合計画にスマートウエルネス、ガーデンシティ、生きがい・絆づくり、ファシリティマネジメント、防災減災対策を位置づけ、具体的な施策を展開している。

2. せせらぎ事業とガーデンシティについて

- ・ せせらぎ事業: 市民やNPOと協力して汚れた川を整備・復活させ、美しい街並みを作り上げている。
- ・ ガーデンシティ: 市民と共同で花を植え、美しい景観を作ることで、自然と歩きたくなる環境を整えている。

3. 健康指標と評価について

- ・ 達者度: 静岡県の通知を基に市民の健康を評価している。男性は県内8位から5位、女性は20位から12位に回復している。
- ・ 幸福感: 市民意識調査で毎年確認している。健康状況が幸福感に最も影響している。
- ・ 成長力・民力度: 全国都市ランキングを指標としていたが、順位が悪化している。第4期プランから共創共同の取り組み件数を新たな指標にしている。
- ・ 健康増進政策の満足率: 令和5年度は選抜肢の変更により突出して良好である。平成23年から令和4年まで10%近く上昇している。
- ・ 介護認定率: 県内で比較的低いが、静岡県平均に近づきつつある。
- ・ 高齢者医療費: 平成22年度は県内ワースト1だったが、徐々に回復している。

4. スマートシティープロジェクトと健康づくりアプリについて

- ・ スマートシティープロジェクト: 高齢者が健康に暮らせる支援やコミュニティの促進を目指している。
- ・ 健康づくりアプリ「KENPOS」: 市民が日々の健康データを記録し、ポイントを獲得できるアプリであり、イベントやリアルイベントとの連携で市民の外出を促進している。

5. フラット三島大作戦について

- 目的: 三島市の街の魅力を高め、市民が積極的に外出したくなる環境を整えることとしている。
- 取り組み: ストリートの公園や空きスペースで音楽会やスポーツイベントを開催し、街の活気を高めている。

6. 地域の力を活用した健康づくりとリカレント教育について

- 目的: 人生100年時代に対応するため、誰もが一人になっても学び直し、活躍できる社会を目指している。
- 取り組み: リカレント教育に力を入れている。

7. サイクリングの促進について

- 目的: 東京オリンピックのレガシーを活用し、サイクリングを普及させることを目的としている。
- 取り組み: ロードバイク体験会や親子マウンテンバイク体験会を開催し、サイクリングの楽しさを広めている。

8. スポーツ保育事業について

- 目的: 親子で遊べるボールを渡し、運動のきっかけを作ることである。
- 取り組み: 順天堂大学の協力を得て幼児の体力測定や運動に結びつく遊びの教室を定期的で開催している。

9. 三島あそび場プロジェクトについて

- 目的: 子どもが運動好きになること、親子のコミュニケーションを促進すること、親が体を動かすきっかけを提供することである。
- 取り組み: 親子で体を動かすイベントを実施している。

10. 女性のスポーツ習慣化応援授業と健康経営支援について

- 女性のスポーツ習慣化応援授業: 女性の運動不足解消を目指し、ワークショップや「子育てママ運動応援プロジェクト」を実施している。
- 健康経営支援: 企業が従業員の健康づくりを将来への投資と捉え、健康経営に取り組む企業を支援している。

11. ベジメーターの導入について

- 目的: 野菜摂取量を見える化し、企業の健康経営を支援することにある。
- 取り組み: ベジメーター測定をきっかけに企業が取り組みを始めている。

12. ウォーキングプラスワンについて

- 目的: 無関心層を取り込むための工夫として、様々なイベントを企画している。
- 取り組み: ゴルフ場のような気持ちの良い場所を散策したり、スターバックスコーヒーを起点にして戻ってきたときにコーヒーを試飲するイベントを実施している。

13. 順天堂大学と三島駅の開発について

- 順天堂大学: 医学とスポーツ健康科学を融合させた研究領域「スポーツロジー」に取り組んでいる。
- 三島駅の開発: 駅周辺にふさわしい都市機能の更新や住環境の改善、既存商店街の活性化、災害に強いまちづくりを進めている。

これらの数々の取組みを通じて、三島市は市民の健康と幸福感を向上させ、地域の活性化を目指している。

【考察】

・三島市の「スマートウェルネスみしま」は、12年間にわたり推進されてきた取組みで、第4期アクションプランでは、市民が「住んでいるだけで自然と健幸になるまち」を目指し、保健・医療、生活環境、地域社会、学校、企業などのあらゆる分野を視野に入れた新しい都市モデルを構築し、従来の34のプロジェクトから5つに絞り、3年間で取り組む事業を明確にした実効性の高いアクションプランを策定し、庁内の23課が連携してワークショップを通じて課題を認識し、それぞれの知識やノウハウを活用してプロジェクトを考案し、健康都市三島の構築を進めていることが理解できた。

しかし、どの事業でも問題となるのが無関心な層をどう引き込むかが課題である。三島市では、親子での健康作りや健康管理以外のイベントや企業との連携を通じて、働く世代の参加促進を図っている。また、地域において絆やつながりの強い地域は、そこで暮らす人の健康度が高いことがわかっている。

磐田市においても、無関心層を含め多くに市民の健康づくりが「一生を通じて前向きに人生を楽しむための手段」となるよう、市民の行動変容を促していくことが求められていると感じました。

公明党磐田会派視察研修報告書

1 視察期間

令和6年7月24日(水) 10:00~11:30

2 視察都市

(2) 福島県喜多方市

3 参加者

鈴木喜文、江塚 学

4 視察事項

・福島県喜多方市

【小学校農業科について】

【調査内容】

・喜多方市の「小学校農業科」は、農業が基幹産業であり、地域の経済と文化に深く根付いているため、子どもたちにその重要性を理解させることが目的として、平成19年に全国初の試みとして導入され、子どもたちが農業を通じて実体験を重視した学びを得ることを目的としています。このプログラムの目的は、「豊かな心」「社会性」「主体性の育成」であり、農作業体験や食育活動、地域との連携を通じて実施されていることを理解した。

具体的に小学校では、1年生から6年生まで全員が田植えを体験し、手作業と機械作業を組み合わせて行っている。4月からの学期では、夏休み中の収穫や就学祭、農業祭りなどのイベントを通じて地域の絆を深め、稲刈りも手作業で行い、農業の大切さを子どもたちに教えていることを理解しました。

教育委員会は農業科を支援し、4月に農業科がスタートする際に支援委員会の承認を行い、今年は104名の支援員が活動している。その他、保険加入や地元農業高校との打ち合わせを行い、地元農業高校はたい肥を各学校に配布し、住民の手伝いや取材を行い、その様子をホームページで発表している。農業科の作物の交流や作文コンクールも実施している。農業科支援員は無償でボランティア活動し、作業や収穫体験を通じて、農業の基本を学んでいる。学校は総合学習の時間を活用し、支援員と協力して農業体験を行い、冬季には給食部と連携して活動し、16品種の作物を学校で育て、教育学習として取り組んでいることを理解しました。

このプログラムは、子どもたちの学びの意欲を高め、地域社会とのつながりを深める効果があり、平成25年には「第42回日本農業賞・特別部門 第9回食の架け橋賞」で大賞を受賞するなど、その取組みが高く評価されていることを理解しました。

【考察】

・「小学校農業科」プログラムは、子どもたちが基幹産業である農業を通じて実体験を重視した学びを得ることを目的とし、子どもたちの学びの意欲を高めるとともに、地域社会とのつながりを深める効果があると評価されている。そして、「小学校農業科」導入を通して、現状の教育課題でもある「豊かな心」「社会性」「主体性」の育成を通し、子どもたちが農業の理解者・支援者となることを期待している。

磐田市においても「総合的な学時間」の中で、自然の中での農作業体験や自分たちがつくったものを食べるという食育活動、地域の支援員とのつながりを深め連携を通じて子どもたちの学びの意欲を高め、農業が持つ「子どもたちの豊かな心を育む力」を教育に生かせると感じました。